

今こそ絵画で心に張りのある生活を！

22期 久保多貞夫

コロナ禍で年配者にはステイホームが定着し、外出量や人との会話量が大幅に減っているのではないのでしょうか。歩かなくなると急激に体力が落ち、閉じこもるとストレス解消もままならず身体にも良くありません。寒くなると感染症は勢いを増し益々厳しくなることが予想されます。油断することなくコロナ対策を十分講じた上で心に張りのある生活への工夫が必要だと思います。

私は定年退職後から本格的に絵画に挑戦し、毎年色々な展覧会に出品してきました。しかし今年は大きな展覧会のほとんどが中止となって目標がなくなり、心が折れそうになっていました。

今年の日展開催は無理かなと思いながら半信半疑で作品を制作していましたが、開催される展覧会が9月頃から少しずつ増えて、日展も11月に東京で開催され入選することが出来ました。(タイトル:「雨の通り道」2020年 日展会場にて)

学友会の美術展も開催されましたが、こんな時こそ美術・芸術に親しんで心を癒すことが重要だと思います。絵画作品を見るのは好きだけど描くことは出来ないと思っている人は、今こそチャンス。絵筆を握って打ち込むと生活に張りが生まれます。それを続けるためには仲間を作って一緒に絵を描くことも大切だと思います。私達にここに会（AC22期）の水彩画スケッチ同好会は15年間続いてきました。

「コロナ禍の前から絵を本格的にやり始めていたことは、本当に良かった。」やり始めて1年足らずの別の絵の仲間がしみじみと語った言葉が私の心に響いています。

